

会 議 録

会議の名称	第4回茨木市地域エネルギービジョン策定委員会
開催日時	平成22年12月1日(水) 午後3時開会 ・ 午後5時閉会
開催場所	茨木市役所 南館3階防災会議室
委員長	玉井 昌宏
出席者	磯崎 強志、大石 ひとみ、加藤 浩幸、黒川 裕之、鈴木 眞由美、 玉井 昌宏、西島 貞夫、藤田 紫、村瀬 径介、山口 容平 (10人)
欠席者	今堀 洋子、兼森 軍二 (2人)
オブザーバー	武田 美奈子、石田 博文 (2人)
傍聴人	2人
事務局	島本環境政策課長、松本環境政策課長代理兼政策係長、井澤職員、 畑中第2計画部長、中川研究員、井筒客員研究員(株)地域計画建築 研究所大阪事務所) (6人)
議題(案件)	1 議題 (1) 茨木市地域エネルギービジョン素案について 2 その他
配布資料	1 茨木市地域エネルギービジョン(素案) 2 茨木市地域エネルギービジョン 策定委員会資料

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	開会
	1 議事
	(1) 茨木市地域エネルギービジョン素案について
	事務局より説明
	・ 6章部分を中心に、1章から6章までの変更点等について説明
	・ 質疑応答
委員 長	5章までについて、議論をお願いしたい。
I 委 員	重点プロジェクトに環境教育についてはあえて入れていないということだが、エネルギービジョンの上位に環境基本計画があり、重点施策として環境に関する教育の推進が挙げられているにも関わらず出さないということになる。P.2「参考」欄に、茨木市環境基本計画の記載があり、環境教育の推進と支援が掲載されているため、重点プロジェクトに出さないのであれば、ここの参考欄に記載をしないか、参考欄に記載するならば重点プロジェクトに入れる方がよいのではないか。
事 務 局	関連があるということで、環境基本計画の重点施策は「参考」として書いている。環境基本計画には、省エネルギーの推進や新エネルギーについての記載があり、その方向性を受けてエネルギービジョンを策定している。環境基本計画に教育があつて、重点プロジェクトに無いという点だが、大半の重点プロジェクトにも普及促進の要素が入っており、あえて出していないということとしている。
I 委 員	注釈があれば分かるが、説明がなければ分からない。
事 務 局	プロジェクト4の具体的な内容・取り組みイメージの3つめも、環境学習の機会の創出と記載しており、プロジェクト3にも環境教育・学習という言葉を出しているため、P.2に「参考」を記載している。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	普及啓発とともに、学校への出前講座等も重要だと思う。もっと、子どもたちを対象にしたものも入っていても良いのではないか。I委員の提案は、教育を前面に出すような表現にしてはどうかというご提案かと思う。
I 委 員	アンケートは、どの世代の方がどのような意向があるのかということも分かると思うので、市民全員に普及啓発を行うというより、アンケートに沿ってターゲットを絞った方が良いのではないか。
委員 長	大きく変えるということは難しいと思うが、対応は事務局にまかせたい。
事 務 局	今回は、方針を新エネルギー、省エネルギー、交通という3つに分けて出している。
委員 長	基本方針と重点プロジェクトについてどうか。P.45から、話の流れが分かるように整理していただいているが、そのあたりも含めて議論いただきたい。プロジェクトがここで決定すると、どうなっていくのかを説明いただきたい。
事 務 局	重点プロジェクトについては、P.45に示すように、導入を期待する具体的なプロジェクトであるので、これは市として推進するための指針であり、具体的な施策に反映されるものと考えている。7つのプロジェクトについて、市としては、財政的なものを考慮しながら、推進していくという考えである。委員の方からいただいた意見も踏まえて、プロジェクトとしてまとめてやっていくと考えている。
委員 長	やるべき内容かどうか、他にやるべきものがあるかどうかもご意見いただきたい。
事 務 局	地域特性等を含めて、ここ5年間で実行可能なものをプロジェクトとして挙げている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A 委 員	基本方針から重点プロジェクトの流れだが、基本方針は1が連携による関係づくりで基盤となるものであり、2が個人、3が新エネルギー、4がまちづくりということかと思う。それに対応してプロジェクトがあると考えると、新エネルギーの項目が多く、まちづくりが少ない印象がある。また、電気自動車やプラグインハイブリッド車をプロジェクトとして出すには違和感がある。現在利用可能なものではなく、国等の積極的な施策もある中で、あえて書くのは市として実施していきたいということか。
事 務 局	まちづくりの観点が少ないことについて、新エネルギーや省エネルギーなど各家庭で取り組んでいただけるプロジェクトと、運輸部門・交通についてもプロジェクトで実施することを考えており、方針4のまちづくりについては、事業所や市民等とともに取り組んでいくということで、まちづくりにつなげると考えている。具体的なプロジェクトとしては、1、3、4、5、6、7について通じるものがあると考えている。電気自動車等については、市として、低公害車の自動車の普及促進を進めていくのと同時に、電気自動車やプラグインハイブリッド車のような自動車についても推進していきたいと考えている。
A 委 員	直近のプロジェクトならハイブリッド車だと思う。先を見たプロジェクトという位置づけになると考える。
委 員 長	まちづくりや交通などは、他の部署の施策と関連する。並列させた方が良いのではないかと。他部署で、二酸化炭素削減効果などを踏まえて試算されているものもあるのではないかと。それらを並列させるというのは難しいのではないかと。
事 務 局	担当課で取り組んでいることもあると思うが、庁内委員会でもプロジェクトを示し進めている。庁内委員会でも一定意見をいただいている中でやっており、今のところは並列させる予定はない。
委 員 長	他にはないということか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	来年度の温暖化防止実行計画策定時に、エネルギー以外の二酸化炭素削減に色々と加えていくということで、まちづくりの観点まで含めて加わってくると考えている。今回のエネルギービジョンでは、この7つを重点的にやって行こうということで考えている。
委 員 長	私も電気自動車やプラグインハイブリッド車は、取り上げ方として、大きすぎるのではないかと思う。
事 務 局	電気自動車・プラグインハイブリッド車については、庁内検討委員会等に持ち帰って検討する。 電気自動車・プラグインハイブリッド車の部分は1,800台である。早い段階では、プラグインハイブリッド車の導入が多いだろうと考えている。プラグインのプリウスが270万円で出ると決まっているうえ、6万台の中での1,800台なので、それほど大きな数字ではないと考えている。
G 委 員	プラグインハイブリッドのプリウスは2013年と言われているが、それでは重点プロジェクトに間に合わないのではないか？
事 務 局	前倒しになっており、それほど無理な数字ではないと考えている。
F 委 員	P.50で残念だと思うのは、市が導入するということが書かれていない。他の自然エネルギーは導入すると書いているが。ステッカーを貼って走るだけでもPRになる。
オブザーバー	大阪府も電気自動車・プラグインハイブリッド車のビジョンを策定している。そちらも参考にするとよいのではないか。
F 委 員	都道府県や政令指定都市は率先導入している。参考になる。
A 委 員	国のモデルをつくらうとしている地域と茨木市では、位置づけが違ふと考える。同じことをする必要はなく、地域の実情にあったものをやるべきである。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
F 委 員	いいものはマネをするのもよい。電気自動車は80%削減となり、削減効果大きい。
A 委 員	住宅の断熱による省エネルギー化については、普及世帯数125世帯は少ないのではないか。
事 務 局	施策的な難しさがある。電気自動車について、市営駐車場料金の減額の部分だけでも、書くのは非常に難しい。
F 委 員	料金の減額より率先導入の方が、意味があると思う。
A 委 員	率先導入と仕組みをつくることは別だと考える。電気自動車は市が入れることは意味があると思うが、太陽光発電について市で入れるのは、もはやあまり意味が無いと考える。対象技術によって、やるべきことが違うと思う。ライフスタイルや給湯について話が出ていないのだが、そこがあっても良いのではないかと思う。
F 委 員	P.48の住宅について、住宅の更新というのは、箱モノの断熱の話か、機器の効率の話か。
事 務 局	断熱化された建て方の話である。基本的には、住宅の性能について考えている。給湯については、P.45の太陽熱のところでは取り上げているが、給湯器そのものについては取り上げていない。
A 委 員	省エネルギー型の給湯器については、ある程度成り行きで入ってくるものかと思うので、書いていないのはもったいない。
F 委 員	建物と機器の更新の2つを並べてもらった方が分かりやすい。P.48の計算式で省エネルギーが非常に大事なことは分かるが、(3)の削減効果に電気代削減と記載されていると、電気代削減が省エネルギーとなるのかという誤解が生じる可能性がある。ほとんどの給湯はガスなのだが、電気代を減らすことだけが省エネルギーと捉えられかねない。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	市民への分かりやすさを考え、光熱費削減について記載しているが、表現の仕方を工夫したい。
F 委 員	分かりやすさと誤解を生むことは表裏一体なので、注意いただきたい。方針2についてだが、「低炭素型」と記載しているのにも関わらず、説明文ではエネルギー使用量がどれだけ減ったかという記載である。タイトルが低炭素なので、“見える化”は二酸化炭素についても記載いただければと考える。低炭素型を冠に出すなら、二酸化炭素がどれだけ減ったかということを併記していただきたいと考える。
A 委 員	積算値を表記しているが、平成27年度のエネルギー消費量がどれだけ減った、という方が分かりやすいのではないかと思う。
事 務 局	目標値は、もう少し方向性のような目標で検討しようかとも考えている。
B 委 員	基本方針が4つあって良く分かるが、そこから重点プロジェクトが7つ出ている。すべてをやろうとするとパワーが必要だ。どれも素晴らしいことだということは分かるが、コミュニティサイクルの普及促進も、駐輪場が足りなくなった等の問題も出てくる。いざ普及してからでは取り返しがつかない。電気自動車・プラグインハイブリッド車については、どこをもって普及したかということも考えるのは難しい。また、マイカー通勤抑制と電気自動車・プラグインハイブリッド車は相反するものである。地域の実情にあった取り組みは重要である。地域の実情にあった案でないと達成することは難しい。前回、コミュニティバス等は、客観的にみると茨木市にあっていないのではないかと述べてた。高齢者の方や、不便なところに住まわれている方がいる。地域にあった取り組みをした方が進むのではないかとと思う。
事 務 局	コミュニティバスは、施策の関係上、調整等々が必要で、プロジェクトに記載していくのは難しいと考えている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A 委 員	ビジョンは、実現の難しさも含めてビジョンではないかと思う。
E 委 員	人と環境にやさしいと記載されているので、福祉の観点からもバスについては考えていただきたい。
オブザーバー	太陽熱利用についてだが、太陽光発電の年間導入件数の半分に普及するのではないかと記載されているが、根拠はあるのか。バイオマスボイラーについて3箇所と記載しているが、これは市の方針があるのか。数字の率の読み方、具体的な根拠があるのかどうか。
事 務 局	太陽光発電の最新の導入実績の半分を想定している。太陽熱は、具体的な数字も把握していないので、創設された場合、どの程度入るかは分からない。ただ、太陽熱は人気が無いため、半分と想定している。あくまで、想定される削減効果という目安である。
オブザーバー	試算根拠が無いので、実際50世帯程度の導入があるということか。具体的な数字等が無いと、かけ離れるのではないか。
F 委 員	アンケート結果から、3割が太陽熱の導入を検討したいとしている。根拠が必要なら、太陽光発電に取り組みたい人の3割ということで採用してはどうか。
A 委 員	今、太陽熱が普及しないのは、理解されていないからだと考える。効果からというと、太陽熱の方が良い。それらも含めて普及するというのであれば良いのではないか。
G 委 員	プロジェクト1と3についての違いが分かりづらい印象がある。3の中に1の家庭があるということでも良いのではないか。
事 務 局	プロジェクト1は、効果を調査し、情報発信していくことがメインとなってくると考えている。プロジェクト3は、企業等に働きかけて環境教育等を実施していただいたり、CSRの活動として働きかけていくことがメインになってくる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	内容として重なっている。
G 委 員	プロジェクト1は情報発信ということだが、プロジェクト3の導入の部分もあるので、導入についてはそちらへ持っていった方がよいのではないか。
委員 長	プロジェクト3で多様な主体と書かれているのであれば、一緒にしてもよいのではないか。
C 委 員	家庭向けや事業所向け等、対象を切り口としてプロジェクトを分けてはどうか。
委員 長	生活スタイルと書いてあれば分かるのだが。良く分かるように切り分けるか、一緒にしてはどうか。バイオマス資源の活用促進とあるが、活用検討ではないかと思う。資源の活用検討プロジェクトとして、方針についてもバイオマス資源利活用を推進するとあるが、「森林バイオマス等自然エネルギー」と記載し、バイオマス資源だけではないように書いて、プロジェクトは活用検討ということで良いのではないか。
事 務 局	担当課等々と相談して検討する。
G 委 員	バイオマス資源は茨木市内で調達するのか、それともどこからか買ってくるのか。
事 務 局	高槻市には府内最大のペレット工場もある。茨木市に近接しているので使えばよいし、市内の間伐材がうまく搬出されれば活用することもできる。3か所についても現実味については検討したい。
G 委 員	常にペレットが手に入れられる状態であれば良いが、わざわざ購入してくるのはどうか。
事 務 局	隣接市で近いうえ、安定的に生産していると聞いている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
H 委 員	ごみを活用するバイオマスは検討の視野に入れられないのか。利用促進となると無理かもしれないが、ごみの資源は有効である。
事 務 局	エネルギー事業者で計画があれば別である。長期スパンの更新時に検討することもできるが、どうか。
H 委 員	中長期で提案するかもしれない。市民のアンケートの自由記述で提案いただいたことなどで、見えてきたことがあると思う。交通の面で、自転車や歩行者が安心して通れる道が少ない等である。レンタサイクルは、自転車は買うより借りた方がよいというような買わない人用の政策なのか。なぜ、レンタサイクルだけなのか。モーダルシフトとして今まで車通勤していたが、マイ自転車を快適に乗りながら、自転車通勤に変えて行くぞ、健康にもエコにも効果がある、というような取り組みができるのではないか。
事 務 局	時代として要望があるが、道路についての空間整備をしていくと記述するのは難しい。
H 委 員	今後、大学ができるために学生が増える。学生は自転車、バイク利用者が大半である。自転車が走りやすい空間づくりが必要ではないか。
事 務 局	集まりすぎると違法駐輪が増えてくるということも含め、コミュニティサイクルを提案している。茨木の場合は、空間として難しい。自転車購入を否定するものではない。
A 委 員	自分の自転車を持っているのは市内の人だが、レンタサイクルは公共交通とあわせて使うため、外から入ってくる人が使うこととなる。
D 委 員	レンタサイクルで借りた方が早い。公共交通機関を利用される方や駐輪場が空いていないという理由で、レンタサイクルを使っている当社の社員も多い。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	自転車は安い。レンタサイクルではなく、購入して駐輪場に置いてあるという実態は多い。
F 委 員	今の話だと、モーダルシフトになっていない。徒歩から自転車への更新となるからだ。
事 務 局	レンタサイクルが駅にあるから、車でなく公共交通で来ることもある。キス&ライド抑制にはなると思う。
B 委 員	市内のレンタサイクルは半年待ちの状況だ。バスは100円で乗れるのなら、レンタサイクルをやめてバスに乗るだろう。教師は、いつ転勤になるか分からないので、自転車を買わない。そのため、レンタサイクルを使っている。駐輪場の容量は、本当に増やすことができるのか。
事 務 局	阪急茨木市駅前の府営鉄筋住宅跡地が駐輪場になる予定である。JRや阪急茨木市駅前は当初の3時間無料、それ以降有料という形態の駐輪場もここ数年整備をしているので、駐輪場は他市よりは充実していると思う。
E 委 員	駐輪場を増やすと書いてしまうと、自転車道については検討されていないことになるため、危険なのではないか。
事 務 局	バスは福祉面で必要ということは分かるが、乗車効率が下がると、二酸化炭素は増えるケースが多い。
B 委 員	電気バスになるとよい。
F 委 員	電気バスは大変高い。相場として1億円なので、電気自動車等よりなかなか進まない。バスも車からのモーダルシフトになるが、徒歩からでは意味がないため、バスというのはなかなか難しい。パーソントリップ等解析して設定すれば効果はあるかもしれない。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
I 委 員	<p>駐車料金を減額するというのは、市として勇気のある一歩と言われたが、国はE T Cを進めるためにインパクトのあることを実施した。今回の重点プロジェクトではインパクトがない。公共施設の無料化等、インパクトのあることを実施すると口コミで広がっていく。彩都の住民の方は、レンタサイクルを大変良く使っていると言っていた。彩都は目玉があったからだ。目玉は何かを検討する必要がある。</p>
D 委 員	<p>できるかできないかは別として、重点プロジェクトを示してあるが、これが、誰に還元されるのかということが見えない。</p>
H 委 員	<p>車を減らそうと言っている中で、電気自動車はよい、プラグインハイブリッド車はよいという相反している。</p>
I 委 員	<p>地域限定や期間限定であれば、できるのではないか。インパクトのあるものがないと食いついてこない。数字だけではなくて、もっと大切なものがあるのではないか。</p>
委 員 長	<p>マイカー通勤抑制の支援とは何をするのか。市民のマイカー抑制についてはしないということだが、これだけではダメなのではないか。全体のことをやった方が良いのではないか。</p>
事 務 局	<p>事業所だけではなくて、市自らもということと、市全体でという観点が必要ということか。</p>
H 委 員	<p>レンタカー等の支援、カーシェアリングなど考えられる。</p>
G 委 員	<p>彩都が電気自動車のカーシェアリングをはじめている。</p>
I 委 員	<p>市の車は土日は使っていないので、使えるのではないか。</p>
G 委 員	<p>箕面市は既にカーシェアリングを実施している。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	方針2で、1人あたりのエネルギー消費量が増加しているとあるが、率を提示した方がよい。エネルギーと二酸化炭素も混じっている。「自己増殖型」という言葉も分かりづらいのではないかと。もう少し分かりやすい文章にした方がよいと考える。
A 委 員	ビジョンが明文化されていない。方針と重点プロジェクトとしている。温暖化対策というと %削減というのをイメージするので、そのようなものがあつたほうがよいのではないかと。長期的なことを入れられるのなら、現時点での制約を飛び越えた議論ができると思う。
事 務 局	本来はビジョンなので、重点となるものがあるのだが、エネルギービジョンの制度が終わっていく中で、今回は、具体的に何をしていくのかという重点に絞り込んだスタイルとなっている。
	7章及び8章について、事務局より説明 ・ 質疑応答
F 委 員	P.52に、目標として7つのプロジェクトで5年間実施して、2%減らそうということになる。来年度の実行計画では、10年後に25%を削減することとなるだろう。この2%はどのような意味をしているのか。5年間2%で、次の10年間で23%減らすのか。温室効果ガスの25%は別につくるとのことか。
事 務 局	今回は重点を掲げ、2%とし、その他の部分については来年度の実行計画の中で議論する予定である。5年間で2%、次の10年間で23%ということではない。
委 員 長	説明は分かるが、この議論をしている意味が分からなくなってしまう。
I 委 員	重点プロジェクトなのに、“25分の2”かというイメージがある。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	目標の掲げ方は精査したい。数字は分かりやすいが、もう少しやわらかい表現にした方が、市民、事業者、市も取り組みが分かりやすくなる。もっと簡単なものにできればよいのかと思う。今日の意見を参考に、現実味のあるものにしたい。
A 委 員	2%がどのような意味があるのかが大切である。単純に“25分の2”ではなく、25%を牽引する2%という意味の重点プロジェクトであれば、施策としても意味がある。
I 委 員	市民としては、イメージやインパクトが必ず必要。そうでなければ、必ず失敗すると思う。
委 員 長	P.53の図は、推計の方法によって変わるということか。グラフ上の黒の線は変わらず、白は設定によって変わるということか。
事 務 局	そのとおりである。
委 員 長	今回はこの数字で決まりと言うことか。
事 務 局	構成を変更する必要がある。大きくは変わらないが微修正をする。オーダーとしてはこれくらいである。理論上は32%程度である。
オブザーバー	これは茨木市の数字なのか。
事 務 局	そのとおりである。
A 委 員	削減マックスと目標値には大きなギャップがあるが、いかがか。
事 務 局	5年間で3,000TJに対して380TJということで、11%程度が重点プロジェクトで削減されるということだ。
委 員 長	機器の更新で買い替えるとなると、こうなるということか。

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	そのとおりである。生活をあまり我慢せずにと数字である。
F 委 員	発展的解消して新たな組織をつくとあるが、実際はどうなるのか。来年の計画はこのメンバーでやるのか、4月以降はメンバーを変えるのか、その見通しについて聞かせていただきたい。
事 務 局 D 委 員	発展的解消をして、実行計画の委員会を作る予定であり、今、整理をして検討しているところである。
	(2) その他
	・ 今後の予定
	事務局から説明
	・ 12/3まででメールによる委員からの意見募集
	・ 次回委員会は、来年の1月中旬～下旬で実施予定
	閉会